『北野・山本地区をまもり、そだてる会』設立２５周年　記念事業

まちづくりフォーラム

～外国人がみる、北野・山本の昨日・今日・明日～

と　き：2006 年１１月３０日（木）
ところ：神戸外国倶楽部

主　催：北野・山本地区をまもり、そだてる会

《敬称略》

コーディネータ	浅木 隆子 （北野・山本地区をまもり、そだてる会 会長）
パネリスト	Ferid Kilki （トルコ）
	王 柏林 （中国）
	Fritz Leonhardt （ドイツ）
	Vidhan Chaudhari （インド）
コメンテータ	弓倉 恒男 （元 神戸海洋博物館 館長代理）

――――――――――――――― 開　会 ―――――――――――――――

司会（山本）　　これから「北野・山本地区をまもり、そだてる会」設立２５周年の記念事業を始めさせていただきます。

まず開会にあたりまして、「北野・山本地区をまもり、そだてる会」会長の浅木隆子からごあいさつを申し上げます。

――――――――――――― 主催者あいさつ ―――――――――――――

浅木　　きょうは当会の設立 25 周年ということで、フォーラムを開催することになりましたが、これだけ大勢の方にご出席いただきましたことを感謝いたしております。ありがとうございます。

この会は昭和 56 年、1981 年の８月１日に六甲荘で設立総会をいたしましてできました。以来 25 年になります。当時急速に増加し始めました観光客による、いわゆる観光公害に対応しますとともに、この地区の個性的な町並みや環境をまもることを目的に、住民や商業者が集まってつくった組織です。今は６つの自治会と２つの商業者組織、婦人会で構成しております。発会以来、さまざまな取り組みをいたしてまいりましたが、詳細は皆様のお手元にお配りしました資料※1、2を見ていただいたらおわかりいただけると思います。

当初はクリーン作戦とかノースモーキングゾーンの設置とか、悪いところをなくす運動が中心でございましたけれど、昭和 63 年にまちづくり計画を作成し、それに基づきまして「まちの記憶を引き継ぐ運動」をはじめとして良いところを伸ばす活動にも取り組み始めました。特に近年では平成 13 年の春以降、恒例となっておりますインフィオラータ北野坂、これは北野坂を３日間、車を止めまして 60 万本のチューリップの花びらで道路上に絵をつくるというものですが、そういう行事とか、昨年はパリのモンマルトル地区と友好提携をしまして、外国にも目を向けました国際的な居住地区としてのあり方を模索しております。

このような活動は一部の人の力だけでは続けていけません。地区内の住民や事業者の方は勿論のこと、行政をはじめ多くの方々にご協力いただきましてこれまでやってまいりました。

北野・山本地区の町並みは３度の危機に遭っております。第二次大戦のときの

空襲による戦災、そして昭和 40 年代のマンションブーム、さらに 11 年前の阪神大震災です。それでも北野町は健康な形で今こうして残っております。異人館もあり、観光客にもいらしていただいています。

私は会長になりまして４代目でございまして、山森さんという最初の会長さんはもうお亡くなりですけれど、その次が浅野先生、浄福寺のご住職、今カメラマンをしていたただいております。その後、今日はご出席ではないですが、八木さんという方が会長をなさいまして、それから私が今させていただいています。

今日はこれまでの 25 年を振り返るだけでなく、これからの北野・山本地区がどうあればよいかということを考えるために、このまちづくりフォーラムを企画いたしました。会場のパネリストの方たちは勿論、会場の皆様にも活発なご意見の交換をしていただけたらと思っております。どうもありがとうございました。（拍手）

※１：「北野・山本地区をまもり、そだてる会」これまでの 25 年（巻末参照）
※２：北野・山本地区をまもり、そだてる会／平成 17 年度の活動概要（巻末参照）

――――――――――――――― 来賓あいさつ ―――――――――――――――

司会（山本）　ありがとうございます。

続きまして、ご来賓を代表いただきまして、神戸市中央区の南野区長にごあいさつをいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

南野中央区長　皆さん、こんにちは。中央区長の南野と申します。きょうは北野・山本地区をまもり、そだてる会の設立 25 周年です。北野・山本地区というのは神戸の顔であります。ですからそういう神戸の顔の 25 周年のおめでたい席に本当は市長さんとか助役さんとかが出ていただければ一番いいんだと思いますけれども、きょうは市会の本会議をやっておりますので、大分ランクが落ちておりますけれども私が参ったわけでございます。顔の大きさに免じてお許しをいただければというふうに思います。冗談はおきまして、神戸市政と中央区の区政にいろいろお世話になっておりますことを、改めまして御礼を申し上げます。

今、浅木会長からこの会の歴史、活動状況をいろいろご紹介されましたが、この異人館の町並みを生かしたさまざまなまちづくり活動に、浅木会長を先頭として積極的に取り組まれておりまして、本当に大きな成果をこれまで残されてきたと、心から敬意を表するところでございます。

私事で申しわけないんですけども、私も役所生活今 38 年目でございます。35 年間はまちづくりとか都市景観とかと何の関係もない仕事ばかりやっておりまして、何もわからなかったんですね。ただ、風景とか景色とかは好きなんです。ですからそういうのはよくあちこちに見に行ったりとかはしたんです。その関係で実はこの異人館も、一つ一つの異人館としては見れるんですね。でもそれを結びつけ、町として見ていなかったなと今になって思います。そして中央区長になってから、この町を歩いたり、あるいは裏道もうろうろとしました。そうするとこの町がつながった連関した形で見えてきました。「あ、本当にここはすばらしいところだな」というふうに改めて感じたわけでございます。少し遅過ぎるのかもわかりませんし、また僕の感じ方というのが本当に正しいかどうかもわかりません。でも自分なりの感動、大きな感動というのはそこにございました。

今年ですけれども、インフィオラータの関係で、私もイタリアとかスペインのカナリア諸島、今ご紹介がありましたパリのモンマルトルとかを浅木会長とご一緒に、ご一緒と言ったらちょっと誤解がありますね、連れられて、首に縄をつけられてという感じですけれども、見てまいりました。そのときに感じたのは、町というのがこんなに美しいものか、こんなに感動を与えるものかというふうに本当に思いました。そういう経験を経てこちらの北野・山本地区を見ますと、また違った目で見え、この地区の存在がますます大きくなってきたように思います。この地区では、インフィオラータとかいろんなイベントをされています。これは皆さんの町を愛する気持ちがあるから、あるいはこんなにいい町だからできるんだというふうなことが、理解ができるようになってまいりました。きょうは当地区にゆかりの深い外国の方もいろいろお越し願って、この町を語っていただくということでございます。どういうふうな目で見ておられるのか、いろいろご意見をお伺いしたいと非常に楽しみにしております。

最後になりましたけれども、この町は神戸の顔でございます。もっともっと発展していくということは、すなわち神戸が発展することでございます。ぜひこの町がもっともっとすばらしい町になって、そして多くの人が訪れるようになっていただけたらと思っておりますとともに、きょうご出席の皆様方のご健勝、ご多幸を祈念しまして、私のご挨拶とさせていただきます。本日はお招き本当にありがとうございました。

（拍手）

――――――――――――　まちづくりフォーラム　――――――――――――

司会（山本）　　ありがとうございます。いよいよまちづくりフォーラムに入らせていただきますが、今日のフォーラムは「外国人から見た北野・山本の昨日・今日・明日」というテーマを用意させていただきました。コーディネートは、先ほどご挨拶させていただきましたまもり、そだてる会の会長の浅木が勤めさせていただきます。コーディネータやパネリストの皆様、壇上にお上がりいただけますでしょうか。

それでは浅木会長よろしくお願いします。

コーディネータ（浅木）　　それでは今からフォーラムを始めさせていただきます。ちょっとフォーラムの趣旨を説明いたしますと、この北野・山本地区は明治初年の開港以来、多くの外国人と日本人が一緒に暮らして、国際色豊かな特色ある居住文化を育ててきました。もともと明治政府がこのあたりを外国人と日本人がまざり合って住んでもよい「雑居地」に指定したところでございます。港に近く、南斜面の温暖な気候が外国人にも愛され、多くの外国人が住むようになってきました。外国人だけでも 16 カ国この小さな北野・山本地区に住んでいらして、４人に１人が外国人という地域でございます。しかし近年では、かつてはこの町にお住みになっていた外国の人たちが、戦争とか震災とかマンションブームとか、観光地になったから嫌だとかいろんな原因で出ていかれ、外国人の人口が減る傾向が出てきておりまして、このことからこの町が本来持っていましたアイデンティティーが薄れつつありますし、ひいては魅力のない町になってしまうんじゃないかということで危機感を抱いております。

そこで今日は、北野・山本地区にかかわりの深い外国人の方にお集まりいただきまして、「外国人の目から見た北野･山本地区の昨日・今日・明日」というフォーラムを企画させていただきました。そのような趣旨から会場もこの外国人クラブを特にお借りいたしました。ここは、昭和 25 年に火事で焼けるまではトアホテルという世界有数の、世界でも 10 指に入ると言われるすごいホテルだったんです。この隣が今はＣＡＰという芸術家の施設になっておりますが、ブラジル移民センターでした。その移民センターからこのトアホテルの着飾った外国人たちを見て、ああ自分たちもブラジルへ行って帰ってきたら、こんな素晴らしいも

のになれるという希望を抱いて、海を渡った場所です。今日は、そういういろんなことをご存知のパネリストの方をお呼びしております。

私も北野へ来まして、お嫁に来ましてもう 42 年になります。今は北野町のこういうまちづくりに関わっておりますが、幼稚園のころにはセントメリーというアメリカンスクールがありまして、そこの友達たちが北野に住んでいましたので、よく北野の町へ遊びに来て、外国人の子供たちと一緒に遊んだという記憶がございます。

それでは少し、パネリストの皆様のご紹介をさせていただきます。お隣の Kilki さんですが、Kilki さんはトルコの方で、1927 年名古屋で生まれられて、1935 年から神戸の中山手にお住まいになって、1945 年に空爆で家が壊れたので、戦後、北野町２丁目のラインの館の上の異人館にお住みになりました。これはハッサム邸といって今神戸市に寄附され、相楽園に移されている建物です。今は御影にお住みでございまして、ずっとイスラム教会のモスクの代表をされています。

その次は、王柏林さん。今日の席順は歳の順で並んでおります。私は省きましてね、すいません。王柏林さんは、神戸で生まれて４代目になられます中国の方。中華同文の顧問をなさっていたり、おじいさまの王敬祥さんは孫文の右腕として、日本に亡命されていた孫文をずっと支えておられた方です。現在孫文の記念館、垂水にございますところと、昨年オープンしました神戸華僑歴史博物館、そこの名誉館長をしていらっしゃいます。昭和５年から王邸と言っていたんですけど、皆様にはグラシアニ邸という方がなじみのある異人館にずっと住んでおられました。

次は Leonhardt さんです。ドイツの方です。神戸に生まれて幼いときは北野町１丁目、北野クラブの上の今マンションのあたりにおうちがあったそうです。サンドという薬品会社に長く勤められまして、ここ神戸クラブの会長を昨年度までしておられました。他に国際医療財団の会長とか神戸ゴルフ倶楽部、六甲山の日本で一番古いゴルフ場の理事とか、海星病院の理事とか神戸レガッタ＆アスレチッククラブといって磯上にあります外国人クラブとか、聖ミカエル、マリストブラザースの会長なんかもしてこられました。

その次の方は、Vidhan Chaudhari さん。きょうはお父様がご出席の予定でございましたけれど、ちょっと海外に急に出張なので息子さんのハンサムな方の方がいらしていただきました。まだ 27 歳ということで、真珠商として３代にわたって神戸にお住まいになっていらっしゃいます。この方のおじいさまが琵琶湖の淡水パールを世界に広めた方で、非常に有名なインドのご一族でいらっしゃいます。そして神戸はとても好きということでアメリカから戻り神戸を選んで働き住

んでいらっしゃるという方で、現役のＪＣのばりばりでいらっしゃるそうです。

きょう最後にまとめを言っていただきますコメンテータとしての弓倉さんなんですけど、弓倉先生は「弓倉（ゆみくら）」と書いておりますけれど「ゆくら」と読まれるそうです。北野町に 40 年以上お住みで、神戸海洋博物館の館長代理をしておられた方で、外国人居留地研究会の会員でいらっしゃいます。そして著書に「神戸トアロード物語」というトアロードのことを非常に詳しくまとめた本をお出しになっていらっしゃいます。

以上、皆様をちょっとご紹介させていただきました。

それでは順番に、皆さんと北野・山本地区とのかかわり、いきさつなどを 5 分くらいずつお話しいただきます。じゃあ Kilki さんから。

Kilki　今紹介していただきました Kilki です。私は父の関係で名古屋で生まれて、

すぐ学校がなかったものですから神戸に移ってきました。神戸に住んでいたのは中山手通り。加納町寄りの方でございまして、そこからここの下にセントマイクという学校があるんですけど、それはイングリッシュ ミッションスクールで、男性だけの 250 人くらいの生徒がおりました学校でそこへ通っていました。それで戦争が始まったその日なんですけど、学校に行く途中で何か皆さんが外に出てきてざわめかしくなったんで、どうしたのかなと思って聞いてみたら戦争で米国をやっつけたといって、ああそうですかって私も若かったものですから、余りぴんと来なくて学校へ行きました。学校には、アメリカ、英国それからインドの生徒がたくさんおりまして、インドもその当時は英国の国籍を持っていましたから、えらい心配をしておられました。私は国がトルコでございました。トルコはずっと中立でございましたんですけど、1 年以内にアメリカ人、英国人それからインド人とか、だんだんと日本を離れて自分の国へ帰りまして、私のところも父がずっとどうするかということを考えていたんですけど、戦前は日本軍の宣伝が非常に効いていまして、満州事変、シナ事変ずっと勝ちっ放しでございましたので、この戦争も半年か 1 年で日本が勝つだろう、終わるだろうということで、今さら動く必要はないということでずっと居座ったんでございますね。戦争が始まりまして、もちろん皆さんと同じように一番困ったのは食料関係なんです。食品関係が割り当て制で、私のところは日本に田舎がありませんので、仕送りも何もありませんで。45 年の 6 月でしたか、爆撃で家が焼けましたんですけど、最初は町内会でだれか必ず家に残るということで疎開して

はいかんということでおりましたから、私は父と一緒に家におったわけです。庭に２つか３つ焼夷弾が落ちまして、水をかけて消そうとしたんです。そうしたら花火のように散って、非常に危険でございましてやけどをした記憶があります。砂をかぶせるとさっと消えちゃうんですね、焼夷弾は。その間に家の天井から屋根からどんどん燃えさかっていましてこれは危ないなと。それで逃げることにしました。中山手通り、加納町寄りの角っこのところでございましたけど、５～６軒かもう少しありましたかね、家が疎開してその跡に大きな用水池みたいなものをこしらえていたんです。最初は何のためにこしらえたのかなと思ってたんですけど、それは火事で焼けたら、そこの水を使って消すんだということで。それでその家が焼けて、逃げる途中でその池のそばを通りましたら、たくさんの皆さんが、どんどん熱いもんですからその中へ飛び込んで、戦争中のその当時は皆さんもんぺとそれから綿入れのずきんをかぶって、夏で非常に暑いので、どんどんそのまま水の中へ入っていくわけですね。私も父もどうしようか、中へ入ろうかという相談をしたんですけど、あんまりたくさんおりましたんで、これはもうやめておいた方がいいとずっと逃げてですね、脇浜まで逃げていったんです。それで２時間か３時間かけて帰ってきたんですね。そうしたら何とその池、池というか小さな水溜りの中に 80 人から 90 人くらい水死しているんです。そこは２メーターぐらいの深さでですね、入ったのはいいが足が届かない。それでつかみ合いをして、皆亡くなったわけですね。空襲で亡くなったんじゃなく、水死したということは残念で、それでどうするんだということで、もう少し西のところにカトリックの教会がありますけど、あそこは焼けちゃったんですね。床が皆木造で、それから椅子も何も皆木造でできていた。それが焼けた後にコンクリートのベースがたくさんあった。そこへその死体をみんな並べて火葬しました。私は父と二人で皆さんを手伝って運んだ記憶があります。そんなんで、戦争は非常にむごいなというふうに考えております。

北野のあたりは山手の方は焼けていなかったんで、私はそこの知り合いのところへしばらくおりまして、それから教会の家が空きましたんで、そこで２年ほどおりました。しかしその家も大分古くなっていて、消防署から危険だから出ていただきたいということで、実際ちょっとした地震で開いたドアが開かなくなったり、開かなかったドアが開いたりして、100 年ぐらいの古い家でございましたので、そこを出まして、自分のところは小さな家をもう１つ持っていましたので、そこへ変わって住んでいました。その家を神戸市に寄附しまして、それが相楽園に今建っておるんですけど、観光地の一つになっております。３７年の水害まで北野町に住んでおりましたが、家の中が大体１メートル半ぐらい土砂で埋まって、

そこも異人館で古い家でございましたので、ちょうどいい時期だと思って御影の方にかわって、ずっと今御影に住んでおるわけです。大体そんなことで、えらい話が下手ですけど聞き苦しかったと思いますけど失礼します。（拍手）

コーディネータ（浅木）　ありがとうございます。次に王さん、お願いします。

王　王柏林と申します。神戸で生まれました。兵庫県庁、今は公館になっておりますけどあのすぐ横で生まれたんですが、その後間もなく北野町４丁目 116 の１番地つまり今のグラシアニ、あの洋館に引っ越してまいりまして二十までそこにおりました。小学校は諏訪山小学校でございます。北野町で育ちましたので、Kilki さんとかあるいは Leonhardt さんとかとは、少年のころから顔見知りでございます。それで少年のころにチャンバラをいたしますと、フェンシング式のチャンバラをしたことを覚えております。小学２年か３年のときでございますか、大水害がございましたですね。この付近のほとんどの水道の水が止まったように思うんです、あるいは濁ったのかもしれませんが。私の住んでいた今のグラシアニの前に水道栓がございました。そこから出る水は布引の水でございまして、非常に澄んだ水が出てきておりましたので、ご近所の方は皆さん水をくみに来られましたですね。それでそのグラシアニの庭に神戸市の水道局の方がテントを張って、サービスをしておりましたんですが、私は家におりましたばあやにお茶を出せといったおかげで、水道局の方から大変かわいがっていただきました。

中学校はちょっとぜんそくがあったものですから、３年ほど遅れましたんですが、中学に３年歳上の者が入ってきたら悪いことを教えるんじゃないかと心配したそうでございますが、歳は３つ上だけども案外すれていないと言われて、変な褒め方をされました。その当時、戦争が終わったばかりでございます。終わったばっかりというよりも、受験したときはまだ戦争中でございましたが、発表があったときにちょうど戦争が終わったんでございます。二中です。

そのころは、やはり日本で住んでおりましたので、爆撃もありましたし、何となく欧米が鬼畜欧米とかいうふうに学校では教わったわけでございますから、日本の学生さんとも心情的にはあんまり違和感がなかったと。むしろ戦後、違和感が生まれたというぐらいに思っております。

実は、中学もぜんそくで休んだり行ったりで、合計５年遅れましたんです。これは今まで言ったことがないんでございますが、５年おくれますと、もう大分大

人になるわけですね。それで中学校を卒業して高等学校へ行くとなると、またこれもちょっと具合が悪いなということで、どう言ったらいいんでしょうかね、オリンピックでいう高等技術を使ったんです。まず代表団が、当時まだ大使館ではございませんで、中国代表団が東京にありまして、その団長と非常に親しかったものですから頼んだんですね。実を言いますと、私は中華同文学校の中学３年を卒業してすぐに関西学院大学の聴講生に入ったんだすね、当時、入学資格といえば高等学校の卒業生ということよりも、合計 12 年間の教育を受けた者という規定がありましたんで、ちょっと詭弁でございますけれども、間違いなく 12 年間行っておるので資格はありますと。東京の大使館の推薦状もあります。ということで、しようがないなということになりまして、入学は特別生です。それでとにもかくにも大学は卒業したと。

当時は今のように大学生がそうごろごろしていなかった時代でして、いわゆる学士さんです。就職は Bank of China。大阪の御堂筋にございます中国銀行大阪支店。これは戦前からある中国の代表的な国家の銀行で、その大阪支店に入りました。入ってみますと 20 名ばかりの人数ですが、外国為替をやっているのは副支店長の高田さんという東亜同文書院を出た方１人が、ドキュメントのチェックをされておりました。はい。そういうことで私は銀行屋になってしまいました。タイのバンコク銀行の大阪支店は実は私がつくったんです。タイにも何遍も行きました。それから私実はこちらの Kilki さん、それから Leonhardt さん、こちらのお二人は私が小さいときに北野町で遊んでおったときには、しょっちゅう顔をみておりましたので、きょうはほっといたしました。大変つまらんお話でございましたけれども、これをもって私の話にいたします。ありがとうございました。（拍手）

コーディネータ（浅木）　まだまだお聞きしたいんですけれども、すいません。順番にまた戻りますので。では Leonhardt さんお願いします。

Leonhardt　Leonhardt です。時間が来たら言ってくださいね。

私は生まれたのは摩耶ケーブルのすぐ下です。この 40 年近く、たまたま今またそこのすぐ近くに住んでおります。私が生まれたのは、今さら歳を隠してもしようがないんですけれども、ちょうど戦争が始まったときで、姉が２人おりまして、姉がドイツ学校に行っていたもので、そのドイツ学校がここの北野町にあったんです。今は何になっているかちょっと覚えて

いないんですけど、フーデチェックさんの向いぐらい。風見鶏じゃなくてあの筋ね。お薬屋さんですか、そこにドイツ学校があったんです。姉がそこへ行っていたので、もちろん家には車もございませんし、バスしかないんですけど、バスもあまりあてにならないので、非常に不便だったので北野町に引っ越してきました。非常にラッキーだったんですけど、北野町に引っ越ししてきてすぐに、摩耶ケーブルの下にあったその家が空襲で焼けたんです。それで北野町に住んでいたんですが、次は、私もまだ小さかったし理由がちょっとわからないんですけど、戦争が終わる前にまた青谷の方に引っ越したんですが、そしたらまた北野町の家が焼けたというので、非常にそういう意味ではついてたんです。

その戦争中、私も小さかったんですけど、不思議なことに結構いろいろ記憶に残っております。この歳になってお昼に何を食べたかは忘れてるんですけど、４歳、５歳、６歳ごろの戦争中の経験はかなり記憶に残っています。先ほどKilkiさんからその戦争中で一番困ったのは食料だと言っていましたけど、幸いうちの場合はドイツ人だったので、この下にドイツクラブがありまして、それでドイツの海軍がよく港へ入ってきて食料を持ってくるんです。それでドイツ人だけあそこに行って配給をもらえたんです。だから戦争中はちょっといい目をさせてもらったんです。だけど戦争が終わったらもうドイツ人は最悪でした。進駐軍が来ましてキャンプとかベースとか病院とか何かいろんな設備があったんですけど、神戸に住んでいるほとんどの外国人は英語ができましたし、バイリンガルの人も多かったのでそういうところに勤めたわけです。ただドイツ人だけはなかなか仕事をくれないんですよね。だからうちのおやじなんかは、ほとんどの国籍の外国人が職をもらってから一番最後くらいに、ちょっとポジションが空いていたらドイツ人にあげようかというようなことで、仕事につくのはかなり遅かったと記憶しております。

その当時、神戸に結構ドイツ人がいたんですけど、うちの青谷の近所にもたくさんのドイツ人がおりまして、戦争が終わってどんどん国に帰らされたんですね。たしか１週間か２週間くらいで国に帰りなさいという命令が来まして、いついつの船に乗りなさいと。うちの場合母親が日本人でしたので、まさか呼ばれないだろうとのんびり構えていたら、近所のやはりドイツ人で日本の奥さんがいたんですけど、そこが帰らされたのでこれは大変だと。うちも順番が回ってくるかもわからないというので、家の家具とかそういうのを全部売って待っていたんです。待っても待ってもお呼びがなくて、結局それがよかったと思います。当時は日本よりもっと戦後ドイツの方がひどかった。ドイツに帰ったうちの親の友達なんかから、ものすごく苦労をしたというように聞いています。それで、戦後私も学校

に行く歳になったんですけど、ドイツ学校がもうなくなってしまっていて、それで神戸にいる外国人といったら皆インターナショナルスクールにしか行けなくて、その当時はこのトアロードの下に今でもありますミカエル国際学校と、女の子はもう一つ下の方に、今名前が変わったと思うんですけどワシントンホテルのあったところにセントメリーズという女の子だけのカトリックの学校がありました。女の子はだからチョイスがあったんですね。だけど男の子はミカエルしかなかって、私も北野町に住んでいなかったんですけど、ミカエルに行っていましたから、それと友達がたくさんこの辺に住んでおりましたし、学校の帰りはほとんど北野町で遊んでいました。先ほどトアホテルの話も出ましたけど、火事になって焼けちゃったのは戦争が終わって２～３年ですか。戦後すぐは進駐軍がここをオフィサーズ クラブに使っていて、パーティか何かをしてて燃やしちゃったと。それでその後焼け跡になっていまして、ただ土台、ファンデーションだけは残っていまして、子供の遊び場にはすばらしかった。迷路みたいになっていて、私はよくここでかくれんぼとかして遊んでおりました。

もう一つトアロードに記憶があるのは、あのころ我々はそんなにいいおもちゃを持っていなかったので、自分で木で飛行機みたいなのをつくって、ベアリングと言うんですか車をつけて、それに乗ってトアロードを降りていたんですけど、いまだったらもう何秒かで即死ですけど、あのころはトアロードをそんなものに乗って遊んでおりました。またそれでは後で。（拍手）

コーディネータ（浅木）　ありがとうございました。それでは次に Vidhan Chaudhari さん。お願いします。

Chaudhari　こんにちは。ここに来れて光栄です。ちょっとお父さんのかわりにきました。おじいちゃんが最初神戸に住み始めたんですけど、1958 年に真珠の仕事でここに会社を建ててやり出したんです。僕はもう３代目になるんですけど。

僕が生まれたのはインドなんですけど、お母さんが子供を産むときはインドに帰っていただけなので、２カ月後くらいは日本に帰ってきました。最初は中山手通りの方の自民党ビルの隣に５歳まで住んでいまして、５歳から神戸クラブの手前、白い家があるんですけどあそこで１１年も住んでいました。Mr.Leonhardt とすごく似ていますけど、聖ミカエル学校にちょっと早かったんですけど、２歳から 11 歳まで通っていたので、似た感じに友達がみんな北野町に住んでいて、海外の方がい

ろいろイスラエルの子供とか、イランの子供たちとかインド、中国、ドイツ、ユーゴスラビア、いろんな国の人と仲よく遊べて楽しんだところがすごい北野町の魅力というか、好きのところです。その後からはカナディアンカレッジに通いましたので、16 歳からは御影山手の方に引っ越しして、今はそこに住んでいます。僕はまだ若い方なのでそれで話を終わらせます。（拍手）

コーディネータ（浅木）　　そうしたら弓倉先生。

コメンテータ（弓倉）　　ここまでは本当に神戸っ子の話ですけれども、私は中国で生まれ、両親はきっすいの和歌山県人で、教育を京都で中・高・大と受けて、そしてここへやって来たわけです。だからここまでは神戸っ子で、ここからは外国人です。

私のこの地区との関わりということですと２つあります。一つは仕事が神戸市役所に勤めていましたので、当然いろいろな仕事の中に商業地区の開発というのがあります。それに若干かかわっていたと。それから就職後間もなくからこの地域に住むことになりましたので、その２つでこの地区にかかわりがあるんですが、仕事上、なぜトアロードというのかということをたびたび市民の方々やいろんな方々から聞かれて、そのたびに図書館に行って調べるんですけれども、あまりはっきりしたことがわからない。やがて退職したら暇に任せて調べようかと、そういう目論みを持っていたわけです。で、本腰を入れて調べてみますと、なかなか奥の深いところがありまして、それがこの地区、それから神戸の歴史に対する関心を非常に高めたというふうに言えるんじゃないかと思います。一冊の本にまとめたりもしました。

神戸が本当に開港し世界に開かれたのが 1868 年。ちょうど来年は 140 年目の年になります。140 周年は再来年の 2008 年になるわけですけれども、そこはちょっと数え方が違うんで皆さん気をつけていただきたいと思いますが、関心はその開港と同時にできた神戸外国人居留地。それとこの山手の北野・山本地区に居を構えたここら辺ですね。それが一つの都市地区といったようなものを形成して、ヨーロッパの文物がそれを中心に浸透していった。そういうところに非常に興味があり、今、神戸外国人居留地研究会の一員としてぼちぼちやっております。ここ２年ぐらい、この神戸クラブの会員だったウィリアムスさんという人がおられて、もう 20 年近く前に亡くなられておりますが、この方は長い間、このクラブの有名な会員だったんですが、仕事の傍ら歴史に非常に興味を持って、神戸クラ

ブという英語の本を書いております。これは戦前編と戦後編があるんです。これを４人の学者と私と共同で訳して、機関誌でも出すようにしておりますが、また後ほど、いろんな折に触れて申し上げたいと思います。（拍手）

コーディネータ（浅木）　ありがとうございます。皆さん１人ずつのお話が本当に充実しているのでゆっくりお聞きしたいんですけど、時間の関係でとびとびにいきますが、お許しください。

私たちが知らない戦前、戦中の話を興味深くお話いただいていますが、外国人にとってこの町のよいところ、悪いところ、お住まいや町の環境はどうだったとか、あるいは外国人のコミュニティ、日本人との交流、そしてご近所づき合いですね、そういうのはどうだったかということをお聞きしたいと思います。

Kilki　戦争中なんですが、隣近所は皆日本の方ばっかりでございまして、これという問題は全然ございませんでした。非常に仲よく暮らしていまして、その当時は神戸、特に中山手から山本通と北野町あたりは異人館がたくさんございまして、外国人もいろいろの国から来ておられた方がたくさん住んでおられました。外に出てだれかに会うと必ず顔見知りで、知らない人はいなかったような状態でございました。戦後、異人館がだんだん老化しまして、維持費が非常に高くつくものですから、外国人もぼちぼちとそれを手放すようになりました。昔は修理とかいろいろ全部個人でもたされまして、それから何年かたってから神戸市の方から援助金も出るようになりましたんですけれども、私の家も、２年ごとにペンキをし直さないとはげてしまうわけなんです。そういうことで非常に苦労をしましたですね。北野町というところは外国人が特に多く、神戸市でも一つのかわった地域であって、戦争中に国に帰った方々も、戦後はぼちぼち帰ってきておられました。

それから風見鶏をＮＨＫがやりましたあと、日本全国からも観光の方々がたくさん来られるようになりまして、非常ににぎやかになりました。確かに神戸市としても非常に喜ばしいことでございましたが、中にはいいことばかりでもございません。一番困ったのが便所なんですね。便所がないので、街角あたりで用を足されたりなんかして。それから飲み物、缶ジュースとかいろいろ持っておられますけど、飲んだ後それを捨てる場所がないからぽいっと庭の中に捨てられるわけです。そういうことで、一時外国人の間でも、北野町というのは汚い町だということもございました。しかしそれもだんだんと解消されまして、長いこと続いた観光の方がいまだに来られるということは、非常に神戸市としてもうれしいことではないかと思います。今私は御影に住んでおるんですけど、北野町というところは非常に愛着がございまして、いつまでもきれいな町

として続けていってくれたらなとこういうふうに思っております。（拍手）

コーディネータ（浅木）　ありがとうございます。まもり、そだてる会もトイレやごみの問題でみんなが頭を悩ました結果できまして 25 年たった会でございますので、本当によくわかります。

王　少しまた古い話に戻りますが、私の少年時代、夏の日にはよく住んでいたグラシアニ邸の門の階段のところに立って眺めておりました。そうしたら外国人の老夫婦が手をつないで散歩をしておるという、そういう風景が今でも記憶に残っております。何とも言えない風情のある夏の昼過ぎという感じで、今から思いましてもすばらしいなと思うんですが。これはちょっと余談ですが、私は諏訪山小学校で模型飛行機をつくっておりました。それで特に胴の長さが７０センチ、羽の長さが１メートル近い飛行機の試験飛行をあの通りでやりましたら、それが外国の老婦人の頭にぼーんと当たりまして、怒った老婦人がバリバリッと飛行機をつぶしてしまいましたんで、私は泣いてしまったんですが、しかし悪いことをしたなと思う一方、その外国人のご婦人もまた恨めしやと思ったわけでございます。そういう老人夫婦が手をつないでゆっくり歩いて散歩を楽しむというふうな風情が、北野町界隈でもうできないんじゃないかなという気がする一方、やはり町は栄えてほしいとも思いますが、ただもう少し昔の北野町の雰囲気を取り戻していただきたいと、静かな落ちついた異国情緒のある町を取り戻してもらいたいと思います。これはしかし神戸市の観光という観点から、観光政策という観点から考えても、そうぜいたくなことも言えないとは思いますが、少なくとも観光バス何かが通るのはあんまり感心しないように思います。端で降ろしてまたその端で乗せるとか、何か工夫を考えてですね、昔の北野町の雰囲気をできるだけ再現していただくように、神戸市の方には何か知恵を絞っていただきたいなと思います。以上でございます。（拍手）

コーディネータ（浅木）　昔の北野町の雰囲気、観光がないときでしょうか。

王　はい、私が小学校時代ですから。

Leonhardt　きょうまで余り考えなかったんですけど、先ほど近所づき合いという言葉が出てちょっと考えてみますと、僕は小さいころは青谷に住んでいましたけど、北野町ほど外国人はいなかったわけです、何人かはおりましたけどね。だから近所ではほとんど日本人の子供と遊んでいました。学校へ行くと当時はほとんど日本人の子供はいなかったんです。だから今と逆かもわかりません。私らが学校へ行っていたころは、先ほども言いましたように学校は２つしかないので、それでやっぱり結構外国人もおりましたから、日本の生徒を入れるほどの余裕がま

ずなかったのと、希望者も余りなかったかもわかりません。そういうことで僕らのクラスなんかでも日本人は一人もいなかったです。だけど今は、Chaudhari さんが言っていたカナディアンアカデミーとか須磨のマリストとかここのミカエルなんか大体３割近くが日本人なんです。恐らく彼なんかも結構学校で知り合った日本の友達ができていると思うんです。逆に近所では余り日本人と遊んでないと思うんですよね。また違ったら後で。

それは別として、この北野町なんですけど、私もここの神戸クラブの会長をしていましたのでここの話をさせていただきますと、実はここへ来てから 50 年か 51 年になるんですよ。神戸クラブの歴史はことしで 137 年になるんですけど、今の市役所の南の公園がありますね、あの辺に長年クラブがありまして、戦争で日本の海軍があのクラブハウスを占領したんです。それで戦争が終わるちょっと前に空襲で焼けちゃって、そのままにしておったんですが、そのうちにアメリカ総領事館があそこにできたので、アメリカの政府にあの土地を売ったわけです。それでそのお金をどうしようかと長年悩んでいて、たまたまここの土地が売りに出ているというので、最初はクラブを建てられなくても投資の意味で買おうということで買ったんです。そうするとほとんどの外国人がこの辺に住んでいるわけです。だからこれはクラブを建てるのに一番いいロケーションだというので、思い切ってここへクラブハウスを建てたわけです。それが 50 年か 51 年前になります。当時はもちろん神戸に外資系の船会社とか銀行とか領事館とかいっぱいありまして、そういうところに勤めている人がほとんど自動的にメンバーになってくれました。

ただ、今になると残念ながらどんどん外資系の船会社とかそういうのがなくなってしまったり、大阪とか東京に移ったりして神戸に勤めている外国人が非常に減ってしまった。大阪に勤めている人は、この辺に住むよりもちょっと東の方ですね、御影から芦屋の辺の方が便利がいいというので、仕事帰りに北野町の神戸クラブまで来るのはちょっとしんどいとか、そういう悪影響は確かにこのクラブにとっては起きております。ここも正式な名前は神戸外国倶楽部と言っているんですけど、もともと外国人だけがメンバーだったんですが、もうかなり前、30 年かもっとなりますかね、少しずつ日本人のメンバーも入ってきまして、今はもう国籍でいきますと日本人が一番多いです。その次がもしかしたらインドかもわからないね。それで 25 年前は 400 人くらいいたのが、今は 250 人くらいになっています。ここの計算方法は夫婦でも一つに計算していますので、個人にしたら 500 人くらいになると思うんですけど。これはやはりこの辺に住んでいる外国人が減っているということが一番大きな影響をしている

と思います。特に震災後かなり国へ帰ったりした外国人もおりますし、企業も引き上げたところもあります。幸い、最近少しずつ、特にポートアイランドⅡ期なんかにちょこちょこと、特に医薬とか医療関係の会社が来ているとか来るとかという話がありますので、もうちょっとそういう人がふえて、住まいをこの北野町にしてもらったら神戸クラブも非常に幸いと思っております。（拍手）

コーディネータ（浅木）　ありがとうございます。じゃあお若い Vidhan Chaudhari さん。

Chaudhari　やっぱり北野町の一番困っているところは、外国人が減ってきているところ。まちのイメージにどうなのか。明治時代からずっと外国人が住んでいたところだから、そのチャームがすごく影響的です。海外の方が神戸をなぜ選ぶかというと、やっぱり住みやすいというところがあるんです。日本はかなり海外の人が住むのが難しいというところが多いんですよね、英語が通用しませんとかそういうところが。北野町は反対にそれが何とかうまくいくんですよね。イメージ的にもすごくコスモポリタンな感じで。神戸市としてはすごい宣伝効果になっているような感じも思います、海外の会社が入ってくるときには。だからそういうところは悪くならないようにお願いしたいです。それだけです。（拍手）

コーディネータ（浅木）　ありがとうございました。じゃあ弓倉先生、まとめて発言をいだけますでしょうか。

コメンテータ（弓倉）　今までお聞きしたことも加えてお話ししたいと思うんですけれども、最初に北野町は汚い町だったと。これはよくわかります。私も 40 年当初来たころに、ごみ一つとっても集積所みたいなものがあって、そこはいつも汚物の汁なんかがたまっていて臭くて汚かった。それが市民と行政の努力で、今では収集日にきちんと袋に入れて、今はまたそのマナーもちょっと乱れがちなところもありますけれども随分よくなったんではないかと思います。そのときに外国人から、もっときれいにできるはずだ、ということをよく聞いていまして、それはそのとおりになりましたので、やはり行政と住民の努力でやれることがまだあるんだなと感じます。荒ごみの日の問題なんかもありますけれども、工夫すればできるんではないかと思います。

しかしどうしようもないと言いますか、世の中が変わってきていると思いますのは、外国人の数が減るという話なんかはそれの一つだと思うんです。例えば私も港の近くの海洋博物館に５年間通いましたけれども、朝、メリケンパークの外の方からポートアイランドのところにコンテナ船が着くわけですね。それがあっ

という間に昼御飯のときにはもういなくなっているんです。ほんの数時間です。ところが昔は船がいったん入ったら、大きさによっても違うんでしょうけれども、大抵は一週間やそこらはいて、そのたびに船員さんはのびのびとしてゆっくり買い物に行ったりできる。あるいはそこへ物を売りに行く船があるとか、そういう対応があったんです。船員さんも丘に泊まってあれこれ家族を呼び寄せて、台所もみんなついて家庭の味を味わえるような施設もあったんですね。ところがもうそんな必要はないんですね。日本人の船員が減っている上に、飛行機で途中で交代するとかができる、そういうことで変わってきているんですね。外国人の居住も、東京集中とかで、今日お話しになった方々みたいに本当に神戸に根を張ってくれて、そういう社会をつくってくれる状態がだんだんなくなってきている。これは非常に残念なことだと思います。しかしなおかつ神戸の遺産として外国人に対してフレンドリーなところがまだあると思います。

それから、区長さんのお話にもありましたように、中央区というのは神戸市全体としてはわずかな面積です。例えば旧居留地のあの狭いところ、それと山手のすぐ向こうのトアロードと、このわずかな軸で非常に神戸らしい雰囲気がつくり出されたわけですね。これをどうしたら保っていけるのか。それには、今の住民は非常に流動的になりましたけれども、おる間はもう永遠におるぐらいのつもりで土地を愛する、そういう姿勢を外国人はもとより日本人ももっと持つべきではないかと思います。ごみの出し方一つをとっても、すぐ出ていく人はルールを守らないし、前からおる人はそういった点は大切にするという気持ちを持っていただいたらと思います。ちょっとまとめには余りなりませんけれども、そういうことで。（拍手）

コーディネータ（浅木）　ありがとうございました。

それでは最後に、皆さんに町の将来、明日ということで一言ずつご提言いただきたいんですが。北野町は今結婚式ブームで、北野へ来たら結婚式をしたいってあこがれて、異人館の庭とかに会場をつくられていますが、異人館を私たちの町の歴史として残していく上で、ただの見せ物小屋のようになっていったりテーマパークになっていくのはやはりいけないと思うんですけど。そういうところを踏まえて一言ずつお願いできますか。

Kilki　神戸というのは、日本だけでなく世界でも非常に有名な町なんですね。どこに行っても神戸と言えば神戸ステーキ。この辺に牛なんかいませんけど、そういうイメージがありまして非常に有名になっております。それと戦前からたくさん外国の船が入って来ていまして、一番の特徴が水ですね。世界でも一番おいしい

のが神戸の水だということで、わざわざこちらで水を積んで帰る。

それと名所でございます。私が今代表をしております教会モスク、イスラム教会ですね、このすぐ下にあるから皆さんご存じだと思いますけど、あれは日本で一番古い教会なんです。建ってから 70 数年ほどたっております。戦争の時にも焼け残りました。戦争中の 44 年の終わりごろでしたか中ごろでしたか、海軍に接収されまして、教会には地下に大きな非常に頑丈な地下室があるんです。そこに物資を置くからぜひ教会は海軍に貸してくれと。それでもう使わないようにしてくれと。ですからこれも一つの神戸の名所として有名になっております。あとで大分たってから東京に一つできましたんですけど、今神戸の教会には、神戸、大阪それから京都を入れまして大体 4,000 人くらいのイスラムの信者がおるわけです。毎週 200 名くらい金曜日の礼拝に集まってきますですけどね。

長崎にグラバー邸という異人館があるんですが、長崎に行けばあそこは必ず皆さんが行かれるわけです。神戸にも異人館がまだたくさん残っています。大分減りましたですけど、それでもまだまだ名所として異人館をいつまでも残していっていただきたい、残していきたい。市の方でぜひ管理をしてやっていただければうれしいです。きれいな海があり山があり、それから日本でもファッションの一番進んでいる町だというふうに戦前からでも有名なんですけど、外国の名前をつけた町もたくさんございますしね、ですから**いつまでも神戸ということを生かしていきたい**と、皆さんもまたいろいろ宣伝していただきましたら結構じゃないかと思います。どうもありがとうございました。（拍手）

コーディネータ（浅木）　王さん、どうぞ。

王　私が神戸市に望むことは、まず**コマーシャリズムに余り乗せられない、本当にしっくりした神戸をつくってほしい。**それにはやはり建築の許可ということで、本当にエキゾチックなロマンチックな北野町を維持していくとすれば、そういう観点からの建築的な指導も私はいただきたいなと思います。きょう後ろの方に白い髪の毛の私の１年後輩の黄さんという建築家が来ておられますけれども、彼の設計するものにはそういう視点をお持ちでありますので頑張ってほしいなと思います。

できるだけみんなでいわゆる店をふやして、大いにはやるような工夫をもっとしていただきたいなと思います。それでやはりロマンチックなそれからエキゾチックな神戸の北野町を、みんなで守っていきたいなとこういうふうに心から思っております。以上です。（拍手）

コーディネータ（浅木）　ありがとうございます。

Leonhardt　どこから始めたらいいのかわからないんですけど、神戸市とか中央区

もそうだと思うんですけど、もっと観光客に来てもらいたいということなんですが、これは大昔の神戸によく船が入ってきたころからなんですが、残念ながらほとんどの観光客は船を降りたらバスが待っていて、京都とか奈良に直行してしまうわけですね。というのは神戸には極端に言うとそういう、特に欧米の人に珍しいものが余りないということ。それで異人館で思い出したんですけど、きょう野澤さんが来られているので、野澤さんから聞いた話をちょっとさせてもらいますと、野澤さんはご存じのように異人館を持っているんですよね、大丸の近くに。で、ある日ヨーロッパからお客さんが来て、これは 80 年前に建ったものだと自慢したら、そのヨーロッパの人がきょとんとして、それがどないしたんやと。私が住んでいる家は 400 年前からあったと言われたというような話をこの間ちょっと聞いたので。そういう観光客をどないして引き留めるか、大変難しいと思います。北野町にも観光客はたくさん来てると思いますよ、だけどほとんど日本人ですわね。それか最近中国語をよく聞くんで台湾かどこか知りませんけど結構来ているようです。だからもうちょっと他の国の人も来てもらえるようにと思うんですけど、非常にこれ難しい問題だと思います。

ただしそういう欧米の人で神戸に住んでいた人。我々のように神戸で生まれたのではなくて、仕事で何年か前に神戸に来て、それでどこかの国に帰ったりもうリタイアした人は神戸にたくさん帰ってくるんです。神戸に住んでいて仕事をしていた時代が非常によかった。だからどうしてもやっぱり神戸へもう一遍来たかったと。これは非常にうれしいことなんですけど、神戸にちょっと遊びに行きたいんだけど泊めてくれないかということで、最近あまり古くからの人がいないので、Kilki さんとかうちはホテルみたいになってしまってるわけです。神戸にいた人ですから、鍵さえ渡していたら勝手に観光に行ったり、自分らが前に行って

いたようなところに行ったりしてやっているのでそれはいいんですけど、それほど住んでいた人にはものすごく魅力があるんですね、神戸は。だからこれからもそういう人を育てるためには、外資系の企業をもっともっと神戸に来てもらって、家族で来てもらって子供は神戸の国際学校に行って、親は神戸クラブのメンバーになって、というようにしてもらうのが一番いいと思うんです。Kilki さんも２代目です。私も２代目、彼(Chaudhari)なんかは３代目ですけど、正直なところこういうファミリーは大分減っているわけです。例えばうちのワイフはポルトガル人ですけど、３代目なんです。うちの子供は神戸で生まれていますから４代目ですけど、子供は２人ともアメリカの大学へ行って、向こうで就職して向こうで結婚してもう帰ってこないですね。そういう家族がたくさんおります。Kilki さんのところもそうですけど、皆高校まで神戸で行って大学はアメリカへ行ってもうそれっきり。何でかというと就職口が神戸にはない。昔は先ほども言いましたように外資系の会社がたくさんありましたので、そういうところに勤めることができたんですけど、残念ながら今はそういう神戸の子供が帰ってきて勤めるようなところがない。これは非常に惜しいことですね。というのはほとんどの子はバイリンガルですから非常にいい人材だと思うんですけど帰ってこない。たとえ日本に帰ってきたとしても東京ぐらいです。東京だったらまだ、特に金融関係ですね、銀行とか保険会社とかそういうところに神戸の子供が勤めているケースはございますけど、神戸はそれがないのが一番残念なんです。最近ではちょっと明るい材料が出ているようですけど、そういうのがどんどんふえるとまた神戸も昔のようなコスモポリタンなシティに戻るんじゃないかと期待はしております。ありがとうございます。(拍手)

コーディネータ（浅木）　Chaudhari さん。

Chaudhari　未来的に北野町をどうしたいかというのは、観光客が増えること、多分それは僕はいいことだと思っています。それで北野町の魅力を訴えることはできます。ただし観光客と北野の人が一緒に楽しめるイベントがいろいろとあればいいでしょう。インフィオラータはすごく成功していますし、それ以外にもいろんな国のイベントを、例えばドイツではよくあるクリスマスのフェアーみたいなのをやったりとか、インドだったらビバリのフェスティバルみたいなコミュニティ全体で、ファミリーも観光客もみんなが集まって楽しめるとか、そういうイベントを北野町で開いて観光客も楽しめコミュニティ、子供たちも遊べるようなイベントがあればいいと思います。

結婚式のこともいろいろ話が出たんですけど、やっぱり結婚式も神戸のロマンを売っていますから、すごくいい宣伝だと思います。北野町で結婚することによって思い出ができることはいいと思いますし、異人館も観光客だけでビジネス的に守っていくことができるかどうかはわからないけど、結婚式場用にも使ってもう少し儲けることが、異人館をちゃんと守っていくために多分助けになるだろうと思います。（拍手）

コーディネータ（浅木）　ありがとうございます。皆さんのいろんな思いをお聞きしまして、神戸のイメージが神戸ステーキや水だけでなく、エキゾチック、ロマンチックという言葉が出ましたけれど、この町はそういう言葉で表せる町だと思います。またもと住んでいた方たちが第二のふるさととして、神戸に戻ってきたいと思わす町ということが今お聞きしてわかりましたので、この雰囲気というのは残して、神戸市が外国の企業をいろんな形で呼んでおりますが、その人たちがまた昔のようにここに住んで、そして神戸クラブのメンバーになって、いろんな形で外国人と日本人の交流が続いていければよいと思ってます。

また、聞いておりますといじめがないんですね。外国人だからといって戦争のときいじめられたりということもなく、今のような学校でどっちがいじめた、こっちがいじめたとかではなく、本当に明るくできたんじゃないかと思います。私もセントメリーで女の子だけのインターナショナルスクールに行っていたんですけど、日本人は義務教育は日本の学校で受けなきゃいけないと言って姉妹校の日本人学校へ移された組なんですね。今は受け入れてくれるそうなんで、また入り直したいんですけど、そういう時代をみんなとともに生きましたので、本当に昔のコスモポリタンの町へ北野町が戻れるようにということを願います。

せっかくですから会場の皆さんからパネラーの方に何かご質問とかがございましたらどうぞ手を挙げて。マイクがまいりますので、どんなご意見でも結構でございますからどうぞお出しください。

トアロードにお住まいの村上さん、どうですか。

会場（村上）　ご指名をいただきましたが、きょうはトアロードから上根会長がお見えですので、ここは会長の方にバトンタッチしたいと思います。

会場（上根）　いろいろありがとうございました。弓倉先生にちょっとお尋ねいたします。先ほど４名の方とご一緒に翻訳をされたとおっしゃっていましたが、その本は市販されておりますか。本の名前をすいませんが。

弓倉　今ご質問の本でございますけれども、まだ本といいますか神戸居留地研究会というのがありまして、それが年に一回会報を出しているんですね。それに神戸クラブの第一部としまして出ています。それがことしの１月に出しておりまして、

第２号が来年の４月には出ると思いますけれども、戦前編と戦後編です。これは三宮のジュンクで売っている場合もあるんですけども、もしどうしても手に入らなければ私が事務局の方に言えばいつでも 1,500 円ですけれども。申し上げた本だけじゃなくて、ほかの研究成果も入っております。今で既に第６号ぐらいまで出ておりますが、そういうものでございます。

会場（上根） ありがとうございました。

会場（林）　北野町３丁目なんですけど、北野町を美しい町につくるためにちょっと要望をしたいと思います。実は動物を飼っている方が朝早いうちに放し飼いにしたりとか、大きい糞を人の玄関の前にしたりとか、おしっこをしたりとか始末がすごく悪いんですよ。外国の方とかいろんな観光客が来ると、何で北野町ってこんなに糞が多いんですかって。ですから北野町に住んでいる人はもっと動物を飼うにしても、ちゃんとマナーをしっかりと。どうかこういう動物を飼っている方は、皆さんよく北野町とか山本通に住んでいる方はみんな協力をして捕まえてほしいです。それが一番いいと私はそう思っていますので、これを要望したいと思いますのでよろしくお願いします。

会場（曹）　南京町からまいりました曹です。私は南京町なんですけど、実を言うと山本通のマンションに住んでいまして、この町はとてもいい環境だと思っています。都心に近いのに夏はヒグラシの声が聞こえてくる、野鳥は飛んで来るし、こういう環境はすばらしいです。

それでインフィオラータとか花を増やすためのイベントをいろいろされているんですけど、木とか花とかを家々でふやし続けていただければいいのではないかと思っています。マンションを建てるときも、既にある木は置いておいていただいたらもっと素晴らしいんじゃないかというような気がします。これは質問というより要望かもしれませんけど、浅木先生、どうでしょうか。

コーディネータ（浅木）　北野町は本当に木とか花を大事にして、みんながまちづくりに取り組んでおりますので、曹さんも北野町の住民になられたので、まちづくりをご一緒にやっていただいたら、ご希望のとおりになるんじゃないかと思います。大歓迎いたしますからお越しください。

会場（松原）　私５０年ぐらい前にここらに住んでおりました。そして新長田地区の方へ行きまして、向こうで震災に遭いまして、それで再開発で私ももう歳ですのでやっぱり昔住んでいたところへ帰ってきたいということで、今山本通３丁目の方に帰ってきたんです。パネラーの皆さんのお話を聞いておりますと、やはり私らの幼いころは外国人の方と一緒に遊んでいたことを思い出します。今もインドの方と深いおつき合いをさせていただいておりますけれども、こっちに帰って

きましてほっとしているんです。新長田の方では震災がひどいものでございまして、全壊したり全焼したりが３０ヘクタールあるんですね。そこの再開発をやっておりまして、まちづくりの会長とかいろんなものをさせてもらいましたんですけど、最後の段階１１年目になりまして新長田を去らないといけないので非常に辛かったんですけれども、こちらへ来まして本当に心からほっとしているんです。やっぱり昔の環境というものがよろしいんでしょうかね。

ところが向こうの方ではきっちりしていたものが、こちらではきっちりしていないところがたくさんあるんですね。例えばごみ出しですね。ごみ出しを前の日から置いているとか、分別をしていないんですね。こんなことほってもいいんかなと思うようなことが平気でされているとか。それから先ほどKilkiさんがおっしゃいましたけれども、汚い町。確かにトイレがないんですね。公衆トイレがない。それから花をたくさんつくっておられるところがいっぱいあるんです。新長田には全くなかったんですね。新しい町になりましても木がない、緑がない、花がない。私は知事とか市長に会っても市道や県道でいいから並木を植えてくれとか言っていたんですけれども一切ないので緑のない町になったんですね。こちらに来てほっとしております。ほっとしておりますけれども、鉢をたくさん道に並べておられるところがたくさんあるんですけれども、もうちょっときれいにならないかなというような感じもしております。整然と植えてもらったらもっと見やすくなるんじゃないかなというような気持ちがしているんですけれども。そういうことで私これから余生をこっちで送らせていただくんですけれども、もっとこうしたらよくなるんじゃないかなというようなこともたくさんあるんですけど、なかなか言えないということもあります。

それからもう一つあるんですけれども、新長田の方では全員が被災者ですね。みんなが助け合ったんです。外国の方も向こうはアジア系の外国人の方、そういう方が震災を機に助け合って、日本人と一緒にやっていた。非常に感激したんです。その皆さんが助け合うという気持ちがあるんですけども、こちらの方に来ますと、何かちょっと心の通じ合わない人もいるような感じで、そこらは何とかやっていきたいなとは思っています。ほっとしている割に、ちょっと違うところもあるかなとそんな感じがしております。

それと王柏林さん。王柏文さんというのは。

王　弟です。

会場（松原）　ああ、そうですか。同級生なんです。

王　どちらで。

会場（松原）　小学校です。

王　小学校で。ああ、そうですか。

会場（松原）　いや、柏まではご一緒ですから、何かご親戚の方だなとは思っておりました。

王　すぐ下の弟でございます。

会場（松原）　そうですか。つまらんことを言いまして申しわけありません。

コーディネータ（浅木）　ありがとうございました。ユニバーサルデザインも一生懸命やっておりますので、鉢やあんなのが出ているのもみんなで取ったり、できるだけ花も苗を配ったりしてきれいな町にということに努力しておりますので、またご一緒に花植えなどご協力くだされば ありがたいです。

ほかの方、いらっしゃいませんか。はい。風見鶏の館長さんです。

会場（岩田）　いいお話を聞かせていただいて、私は何か神戸に住んでいる外国人の方のお気持ちが少し理解できたような気持ちになりまして、大変うれしく思いました。二、三お尋ねしたいんですけど、一つはですね、この北野に住んでいて自分が外国人であるということから、この地域は特別な地域だなとか、そういうような思いはございましたでしょうか。

そしてまた、自分が外国人であるということから、ほかの人たちと違うという意識をお持ちだったんでしょうか。今さっきからお話を聞いておりますと、余り私たち日本人と変わらない感覚をお持ちだと、そういうふうに私は受けとめたんですけれども。ちょっと難しい話をして何なんですけれども、ここにお住みになっていながらこの地域を他の地域とは少し違うなというような意識はお持ちだったんでしょうか。もしそういうふうなことがございましたら、どういう点がそういうふうに思われたのかということを教えていただきたいなと思います。

王　今ご質問になったのは、風見鶏の館長さんですか。実は私中華同文学校の副理事長を 31 年間やっておりまして、それであれは同文学校の学生寮に使っておりました。やはり外国人の学校だと。外国人だという意識で、あの伝統のあるあの建物ですね、教義的なものを壊してはいかんということを私はしっかり申し上げまして、中は全然触っておりません。それと屋根裏部屋が非常におもしろうございます。江戸川乱歩の舞台にもなりそうな、しかも隠し階段もございまして表階段と隠し階段がございます。

コーディネータ（浅木）　Leonhardt さん、今のことについてちょっと。

Leonhardt　確かに私らも神戸で生まれてずっと神戸で育っております。だけどどちらかというと外国人のコミュニティの中で育ってきたわけですね。そういうものの会社のスタッフはほとんど日本人でしたし、そういうつき合いもありました。

ここに住んでいるから、あんまりそういうことを気にしないんですよね。だけどよそから来た人、特に神戸に来る前にどこか日本の、ちょっと神戸ほどインターナショナルじゃないところから来た人はやっぱり感じるらしいですね。どこどこから来てそこに行ったら、道を歩いていても「ああ、外人さんや、外人さんや」とかよく言われたと。だけど神戸にきたら全然無視されていると。いい意味でね。そういう神戸のよさがあると思うんです。これはやはり昔から外国人になれているからだと私は思っているんですけど。

それとちょっと先ほど浅木さんからいじめの話が出たんですけどね、私も国際学校に行っていましたし、今も須磨のマリストの理事長をしているんですけど、大体今 30 ヵ国くらいの子供がおるんですね、日本人も含めて。だから皆そういう意識をあまりしていないんですね。国籍とか宗教とかに関係なく、何で国でそんな戦争をしたりなんかしているのかなと思うほど、神戸に住んでいるそういう国の人は意識をしていないです。非常にいいことだと思うんですけどね。

コーディネータ（浅木）　ほかもうお一方ぐらいいらしゃいませんか。そうしましたら会場からのご質問というのは、これで終わらせていただきます。

今日、ここに並んでいる人だけでも、これ６つの宗教で並んでいると思うんですけれど、世界中で一つの宗教だけでもあれだけ戦っているときに、神戸というのはこれだけ宗教があって、これだけ人種がいろいろいても、本当にいい形でいっている国だとつくづく平和を感じさせていただきました、今日は。

弓倉先生、最後にまとめていただけますか。よろしくお願いします。

コメンテータ（弓倉）　いろいろなご意見が出て、ちょっと補足をさせていただきたいんですけども。Leonhardt さん、今新長田から北野へお帰りになった方が向こうの方は地震のときに外国人の方と助け合ったというお話をされましたが、ここも随分したんじゃないですか。ちょっと紹介してあげた方がいいんじゃないですか。

Leonhardt　あんまり宣伝してはいかんと思って言ってなかったんですけど、実は震災のときに幸いにここ(外国倶楽部)電気はなかったんですけど、プールがありますでしょう。冬でしたけどずっと水を入れていたんですね。だからトイレとかそういうための水は全く困らなかったですし、それとここはレストランがありますので、かなりいろんな食料があったわけです。だから一時、確か 200 人くらい近所の人がここで寝泊まりしていたんです。それでコックさんも皆呼び出して、

どっちみち電気がなかったんで冷蔵庫に入れておいても腐りますし、そういうやつをどんどん料理して、ここで泊まっている人に食べていただいたんですよ。そうしたら神戸の避難所の中で一番おいしい料理が出るといって、ちょっと評判になったんですけどね。

コメンテータ（弓倉）　そういうこともありましたんで、お帰りになって本当によかったと思います。

パネラーの皆さんや会場の方のご意見を聞きまして、それから図らずもいじめの問題なんかも出てきたんですけれども、今世界的に見てもやっぱり心の問題が非常に問われるような事態になっているんじゃないかと思います。何となくせっかちな時代ですね。ゆっくりしていない。きょう皆さんにお伺いした話では、あのころはもうちょっとゆったりしていたと。これは実は先ほど翻訳しました「神戸クラブ」という英語の本ですけれども、もう一つその数年前にコンコルディアクラブというドイツの立派なクラブがあったんです。神戸の場合はこのドイツ人のクラブとそれからイギリス人のクラブ、といってもイギリス人の方はすべての国民を受け入れてましたけれども、そういうクラブの歴史をひもといてみますと、随分昔はゆったりとしていますね。どうしてこんなに忙しくなってきたのかなと思いますね。これはひとり神戸だけではないと思いますけれども、もう少し日本の国民も世界の人々も、片一方でスローフードとかクオリティ・オブ・ライフというのが、このごろ言われていますが、生活の質を考えるには、まず僕はゆっくりものを考えることに帰っていくべきではないかと思います。

この神戸の北野・山本地区というところは、足もとを掘り返せば掘り返すほど本当にいろんなことがあります。もう異人館だけではなしに、本当に移住斡旋所の問題もありますけども、その前にお寺さんもいっとき日本の歴史の中で拝仏喜捨といって仏教が弾圧とまではいかないけど、大分冷遇された時代があるわけですね。それを何とか挽回しなければならないということで、この近くに有名な説教所というのができているんです、仏教の。その建物は何と居留地のものをまねして洋風に建てた建物です。そこで何と兵庫県の第一回の県議会が開かれているんですね。その建物は非常にいいものでありましたけれども、もういかにも危なかったんですが、ちょうど時期よく震災の直前に建てかえまして、そのステンドグラスとかそういうものが残っていますけど、そういうものもこの地区にあるんですね。そのほかいろいろ伝説を聞きますと私なんか知らんことだらけなんで、きょうパネラーの皆様からまた会場の皆様方からもお聞きしましたけれども、そういうものを大切に温めて一層豊かな生

活を求めていきたいと思います。

王　神戸の外人ということで、外人というのは髪の毛が金髪とかそういうだけじゃなしに、私は中国人ですけど同じような色をしていますのでぱっと見ても外人とはわかりませんけども、神戸に約 7,000 人ほど住んでおりまして、先ほど長田に住んでおられる方がおっしゃいましたけれども、地震のときに神戸中華同文学校は一般の方を収容しました。また南京町では、今日はいわゆる豚まんをつくっておられる曹さんがいらっしゃいますけども、南京町の華僑は総出で、神戸の市民に恩返しをするために無料で食事をつくったわけですね。我々はいつもは外人であるという意識は持っていないんですけど、そういうときにはやっぱり出てきますね。お世話になったところに何とかしなければいかんと。大変時間をいただきましたけどもご案内をさせていただきました。ありがとうございました。（拍手）

コーディネータ（浅木）　ありがとうございました。

来年の４月の末からまたインフィオラータがございますけど、それのテーマは“世界のまつり”ということにしておりますので、皆さんに世界のお祭りを教えていただいて、春のにぎわいをつくっていきたいと思っています。

きょうは本当に皆さんありがとうございました。パネラーの皆さんにもう一度拍手をお願いします。（拍手）

つたない司会で申しわけなかったんですけど、この後パーティーがございますので、ご出席ください。

司会（山本）　大変興味深く有意義なお話をありがとうございました。もう一度拍手をお願いいたします。ありがとうございました。（拍手）

配布資料１

「北野・山本地区をまもり、そだてる会」これまでの 25 年

「北野・山本地区をまもり、そだてる会」　これまでの２５年

○ 設　立 ： 昭和56年(1981)８月１日
急増する観光客への対策と、地区景観の保全・育成を目指して結成しました。

○ 区　域 ： 神戸市中央区 北野町１～４丁目 および 山本通１～３丁目（約 45ha）

○ 構　成 ： ６自治会、婦人会、２商業者組織　（約2,000世帯、約4,100人、約150事業所）

○ これまでの活動概要
悪いところをなくし、良いところを伸ばすという両視点からの取り組みを実践してきました。

《計画づくり》
- 地区白書「北野・山本1987」発行／S.62　――地区現状の共通認識を得る
- 「北野町・山本通まちづくり計画」策定／S.63　――まちづくり憲章、約束の設定
- 「夜間景観の組み立て」「花と緑の修景計画」検討／H.12
- 「北野・山本ユニバーサルプロジェクト」への取り組み／H.14～
  - 「おもてなしマニュアル－坂のまちのユニバーサルデザイン」発行／H.17

《マイナス面をなくす実践活動》
- 「クリーン作戦」の実施／S.56～、毎月１回
- 「ノースモーキングゾーン」の設定／S.58～　（H.元年、地区全域に拡大）
- 「迷惑駐車・迷惑タクシーをなくす運動」／S.64～、主にゴールデンウィークに実施
- 「迷惑看板・自動販売機等をなくす運動」／H.2～、啓発･実践活動とパトロール
- ゴミ箱の管理／H.5～と、ゴミパトロールの実施／H.11～
- 公園・広場の管理

《プラス面を伸ばす実践活動》
- 「北野・山本まちなみフェスタ」の開催／H.1～ 毎年秋（H.7年は中止）
  ――地区の実情を皆で知り、将来を考える
  （異人館紀行／まちなみスタンプラリー／伝建銘板ラリー／画家の広場／市民作品展／まちなみパネル展／風見鶏ミニコンサート／シャンソンの集い／まちづくりバザー／ガレージセール／青空市／アンケート調査／まちづくりフォーラム）
- 「花と緑を増やす運動」／H.4～　－毎年春、花苗等の配布
  - 「インフィオラータ」／H.9～　平成13年より“インフィオラータこうべ『北野坂』”
  - 「ひょうごグリーンネットワーク」の実践活動／H.8～
- 「まちの記憶を引き継ぐ運動」／H.6～
  - 「異人館基金」創設活動／H.7～
  - 「歴史保管倉庫」の設置／H.8
  - 「伝建銘板」の設置／H.9
  - 生活史ドキュメント／H.14
- 国際交流事業
  - イタリア･ジェンツァーノ市との交流／H.16より　－インフィオラータを通じて
  - パリ･モンマルトル地区との友好提携／H.17

《行政とタイアップした施設整備計画の立案－ワークショップによる施設づくり》
- ハンター坂、天神坂の整備／H.1
- ピッコロパーク･ハンター坂(まちづくりスポット創生事業)、ピッコロパーク･不動坂／H.12

《その他、会の運営》
- 定期総会（年１回）、定例委員会（月１回）
- ニュース（*KITANO･YAMAMOTO HERALD*）の発行／随時

○ 表彰等
- 「景観形成市民団体」の認定／S.56
- 兵庫県まちづくり功労賞／S.63
- 建設省まちづくり功労者表彰／H.1
- 神戸市環境功労賞／H.3
- 建設省都市景観大賞／H.3
- 兵庫県保健衛生･環境美化功労団体表彰／H.6
- 国土交通省 手づくり郷土大賞／H.17

2006.11.30　「北野・山本地区をまもり、そだてる会」設立 25 周年記念事業　資料

配布資料２

北野・山本地区をまもり、そだてる会／平成 17 年度の活動概要

KITANO・YAMAMOTO HERALD（増刊）

北野・山本地区をまもり、そだてる会／平成 17 年度の活動概要

平成 17 年度は、こんな活動をしてきました。ご報告します。

◆パリ・モンマルトル地区との友好提携調印　平成 17 年 4 月 13 日

北野・山本地区と共通点の多いパリ・モンマルトル地区と友好提携を結び、お互いの歴史や現状を紹介しあいながら交流を深め、共に将来のまちづくりを考えていくことを約束しました。

◆インフィオラータこうべ『北野坂』2005　平成 17 年 4 月 29 日～5 月 1 日

「花と緑を増やす運動」のシンボルイベントニインフィオラータこうべ『北野坂』。
2005 年のテーマは "源平時代" です。

◆第 25 回 通常総会　平成 17 年 7 月 1 日

毎年の通常総会も 25 回を迎えました。　浄福寺（北野町４丁目）本堂

1

北野・山本地区をまもり、そだてる会／平成 17 年度の活動概要

◆モンマルトル地区との「友好銘板」設置式典／モンマルトル　2005 年 7 月 13 日

パリ・モンマルトル地区では、北野・山本地区との友好提携を記念して、銘板を設置することになりました。

◆『思い合いのまちづくり／坂のまちのユニバーサルデザイン』発行

平成 17 年 8 月（全戸・全事業所配布）

"だれにもやさしいまちづくり" を目指し、皆でちょっと助け合えるためのヒント集をつくりました。まちなかで困っている人をみかけたら、ちょっと手を差しのべてください。

2

北野・山本地区をまもり、そだてる会／平成17年度の活動概要

◆モンマルトル地区との「友好銘板」設置式典／北野・山本　平成 17 年 10 月 3 日

パリ・モンマルトル地区と隣じ銘板を、北野町広場に設置しました。

◆「北野・山本まちなみフェスタ 2005」　平成 17 年 11 月 3 日

地区内外の人々にまちの実情をも見つめ直してもらうための「北野・山本まちなみフェスタ」。平成元年に第 1 回を開催し、震災の年を除いて毎年実施してきました。

3

北野・山本地区をまもり、そだてる会／平成17年度の活動概要

◆「手づくり郷土大賞」受賞（国土交通大臣表彰）　平成 17 年 12 月 5 日

北野・山本地区が国土交通省の「手づくり郷土大賞」を受賞しました。

◆北野・山本ＵＤ・点検まち歩き　平成 17 年 3 月 26 日

北野・山本ユニバーサルプロジェクトの一環として、まちの問題箇所を皆で点検しました。

◆ラインの館リニューアルオープン式典への参列　平成 17 年 3 月 30 日

ラインの館のリニューアルオープンに際し、皆でお祝いに伺いました。

4

《参加募集チラシ》

北野・山本まちなみフェスタ

『 北野・ 山本地区をまもり、そだてる会』　設立 25 周年 記念事業

今年は「北野・山本地区をまもり、そだてる会」の設立 25 周年。
これまでの北野・山本地区を振り返り、これからの北野・山本地区を考えるためにフォーラムを企画しました。
多くの方々の参加を期待します。

2006 年 11 月 30 日（ 木）　3:00 pm ～
神戸外国倶楽部　（神戸市中央区北野町 4 丁目 15-1）

◆まちづくりフォーラム　～外国人がみる、北野・山本の昨日・ 今日・ 明日～

北野・山本地区の居住文化を支えてきた外国人達に、このまちを語っていただき、皆で将来を考えます。

15:00 ～ 17:00

参加費：無料

（コーディネータ）　浅木 隆子 氏
（北野・山本地区をまもり、そだてる会 会長）

（パネリスト）　Ferid Kilki 氏（トルコ）
Vidhan Chaudhari 氏（インド）
Fritz Leonhardt 氏（ドイツ）
王 柏林 氏（中国）

（コメンテータ）　弓倉 恒男 氏
（元 神戸海洋博物館 館長代理）

◆設立 25 周年 記念パーティー

17:00 ～

参加費：1,000 円（北野・山本地区内の方）
（地区外の方は 3,000 円）

「まちづくりフォーラム」「記念パーティー」に参加ご希望の方は、11 月 10 日（金）までに、
右記担当者にお申込み下さい。

担当者名	

北野・山本地区をまもり、そだてる会　事務局：神戸市中央区北野町 1 丁目 5-28 浅木方　TEL 078-242-6288

本冊子は「北野・山本地区をまもり、そだてる会　設立２５周年記念事業」として開催した『まちづくりフォーラム　〜外国人がみる、北野・山本の昨日・今日・明日〜』の速記録をもとに、一部要約をして編集したものです。

当日の会場には、地元会員は勿論、神戸市景観形成市民団体連絡協議会の皆様、神戸市行政関係者など、150名を越える方々にご参加いただきました。

発行：北野・山本地区をまもり、そだてる会

（事務局）神戸市中央区北野町１丁目5-28 浅木方　TEL078-242-6288